

山口県 地域医療の風だより

Yamaguchi Community Medicine News

2021.03

No.
20

地域医療の現場より (特集) コロナ禍で挑戦する地域医療

トピックス
県からのお知らせ

山口県医師修学資金貸与者を知事が激励！
医師確保総合情報サイト「やまぐちドクターネット」
地域医療に従事する医師を志す方への支援制度



山口県 地域医療の風だより

No. 20 令和3年3月号

目次

- ◆ 地域医療の現場より … 2
(特集) コロナ禍で挑戦する地域医療

- ◆ トピックス … 16
山口県医師修学資金貸与者を知事が激励!

- ◆ 県からのお知らせ
 - ◇ 医師確保総合情報サイト「やまぐちドクターネット」 …… 17
 - ◇ 地域医療に従事する医師を志す方への支援制度を設けています! …… 17
 - ◇ 「山口県地域医療の風だより」発送の御案内 …… 19

地域医療の現場より

第20回

位置 東端東経 132° 30' 西端東経 130° 46'
南端北緯 33° 43' 北端北緯 34° 48'



面積 6,112.53平方キロメートル
人口 1,368,495人(平成30年10月1日)

地理院タイル(白地図) (<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html#blank>)を加工して作成

皆さんは「やまぐち地域医療セミナー」というものをご存じでしょうか。医学生に地域の医療や生活環境を実感し、地域医療の魅力を知ってもらうことを目的とした取り組みですが、今年度は、コロナ禍の中、県内7市町のリレー方式による完全オンラインで開催し、高校生向けの「高校生セミナー」も行いました。

そこで、今回は「コロナ禍で挑戦する地域医療」と題する特集を組み、「やまぐち地域医療セミナー」の開催までの軌跡、開催の概要等をドキュメンタリータッチでお届けします。

ちょうど「2020年度」が20回目という記念すべき号であり、現在と未来の地域医療の担い手たちのチャレンジに触発されて、この「地域医療の風だより」でも思い切ってチャレンジしてみました。

コロナ禍で
挑戦する
地域医療

今年は「セミナー特別版」

学生が地域で学び考える



やまぐち
地域医療
Community
Medicine Seminar 2020

8.17 → **9.9**

オンラインセミナー

参加者募集!!

対象 8.17(月)～9.9(水)の期間中に周南市、萩市、岩国市、下関市、周防大島町、長門市、美祢市の7つの市町で開催されるセミナーのいずれかに2日間参加できる
地域医療に興味のある大学生・専門学生

周南市	萩市	岩国市	下関市	周防大島町	長門市	美祢市
8.17 MON ↓ 8.18 TUE	8.19 WED ↓ 8.20 THU	8.20 THU ↓ 8.21 FRI	8.20 THU ↓ 8.21 FRI	8.27 THU ↓ 8.28 FRI	9.2 WED ↓ 9.3 THU	9.8 THU ↓ 9.9 FRI

お問い合わせ先



地方独立行政法人 山口県立病院機構
山口県立総合医療センター

実行委員会事務局 山口県立総合医療センター
へる地域医療支援部
TEL 0835-22-4411 E soumuka@ymghp.jp



－「やまぐち地域医療セミナー」とは

「やまぐち地域医療セミナー」は、医学生に対し、実際の医療現場を体験し、併せて地域の生活環境も実感できる機会を提供し、地域医療に貢献する医療人を育成することを目的に平成22年度から始まった。

高知県の医学生や看護学生の参加、民泊の実施など、回を重ねるごと進化（深化）していき、令和元年度までに既に10回の開催を積み重ねてきた。

今までは一つの市町で開催していたが、令和2年度は、全県で開催し、高校生も参加できるようにしようと壮大な計画を立てていた。開催する市町では必要な予算を確保しており、着々と準備を進めていくはずであった。

－新型コロナウイルス感染症の猛威

令和元年12月に中国の武漢で発生した新型コロナウイルス感染症が急速に全世界に拡大し、山口県でも令和2年3月4日に1例目が公表された。4月7日には東京都をはじめとして7都府県に緊急事態宣言が発令された。

新型コロナウイルス感染症の猛威は止まず、緊急事態宣言の対象を全国に拡大するのは時間の問題であった。

そのような中、4月13日に「やまぐち地域医療セミナー2020 第1回実行委員会（キックオフ・ミーティング）」が山口県立総合医療センターで開催された。

－暗雲が立ち込める朝

実行委員会には、事務局を務める山口県立総合医療センターへき地医療支援部の他に、岩国市、周防大島町、周南市、美祢市、下関市、長門市、萩市、山口県、山口大学、山口県立大学、そして自治医科大学や山口大学の学生等が参画していた

が、新型コロナウイルス感染症の影響でウェブ出席も目立っていた。



参考までに、当日示された実施日程イメージは以下のとおりである。

8月20日（木）

- 9:30～10:30 開会式・オリエンテーション
- 10:30～17:00 各市町で実習（医療機関・介護福祉施設・サロンなど）
- 18:00～19:00 Meet the Expert（地域で活躍する人々との語り）
- 19:00～20:30 交流会
- 20:30～ 宿泊（宿泊施設又は民泊）

8月21日（金）

- 8:30～ 9:00 高校生と医学生等との対面
- 9:00～15:00 各市町で実習（医療機関・介護福祉施設・サロンなど）
- 15:00～16:00 医学生等と高校生との交流
- 16:00～ 山口市への移動
- 19:00～20:30 全体意見交換会（翠山荘）
- 20:30～ 宿泊（翠山荘又は松政）

8月22日（土）

- 8:30～ 9:00 報告会場へ移動（山口県国保会館会議室）
- 9:00～12:00 報告会準備
- 13:00～15:30 報告会・修了式

各市町からは、1日目と2日目に行われる企画案も示された。

医療機関、介護福祉施設、サロンでの実習はもちろん、消防本部での実習やセミナー開始前日から民泊など、実現できればきっとワクワクするような体験ができる、そう思わせるような企画が次々と発表された。

そう、実現できれば・・・。

実行委員会の面々は、企画案をプレゼンしながら、あるいはそのプレゼンを聞きながら、新型コロナウイルス感染症の対応に頭を悩ませていた。

連日全国で感染者数が報告され、予定していた会議やイベントが軒並み中止や延期、出張も厳しく制限され、自粛ムードが漂い様々な活動も抑制的になっている。

大都市と比べて感染者数が少ない山口県においても緊急事態宣言が現実味を帯びてきた。

実は、キックオフの前に、予定していた会場が新型コロナウイルス感染症の影響で使用できないことが判明していた。

下関市、周南市、下松市、光市の県立高校でも再び臨時休校となり、とてもではないが高校生に参加を呼びかける状況ではない。

新型コロナウイルス感染症の状況が改善しない限り開催はできない、それが暗黙のコンセンサスであり、今回のキックオフ・ミーティングは来年度に向けてのシミュレーション・・・そんな雰囲気すら漂い始めた。

キックオフ・ミーティングが終了して大学に戻ってみると、既に休校が決まっていた。

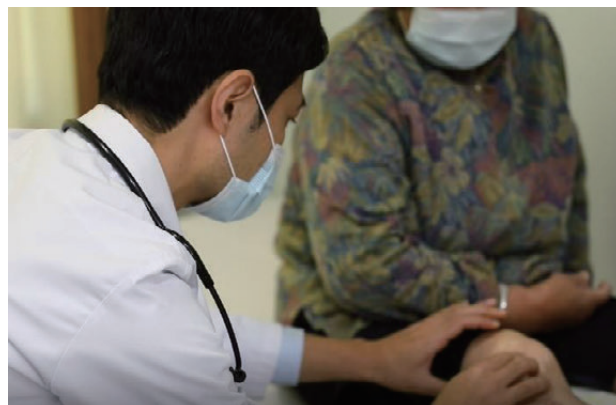
「やまぐち地域医療セミナー2020」の前途には、早くも暗雲が立ち込めていた。

一日差しが影を落とす午前中

「やまぐち地域医療セミナー2020」をどうするか考えなければならないが、それはそれとして、

通常業務である医療支援を欠かすことはできない。

医療支援には、常勤医師が確保できない離島や山間部に赴き、現地の公民館などで定期的に診療する「巡回診療」や、へき地診療所の医師が急病等の場合に代わりに診療する「代診」があるが、診療所や公民館まで行くことができない患者もいる。その場合は、患者の自宅まで赴いて「訪問診療（在宅医療）」を行う。



これらは新型コロナウイルス感染症が流行していても欠かすことができない。

いつものように「へき地」と呼ばれる地域に赴くが、地域での集まりやイベントが中止になったとの話を聞く。

サロンでの他愛無いおしゃべりを楽しみにしていたあの人の残念そうな顔が浮かんでくる。

新型コロナウイルス感染症の対策としてやむを得ないのかもしれないが、これでは、家族以外と交流する機会もないのではないかな。

訪問診療に行っても、新型コロナウイルス感染症の影響が影を落としていた。

この方は、病気のため体が十分に動かせない。

訪問診療、訪問看護、あるいは訪問介護以外で人と接することがあるだろうか。

確か、この方の娘さんは東京に嫁いでいっているし、息子さんは大阪で働いているはずだ。

緊急事態宣言が出されている中、おいそれとは山口に帰れない。「自粛警察」の活動が活発になり、県外ナンバーの車に石を投げられた、というニュースもあった。帰りたくても帰れないだろう。

新型コロナウイルス感染症が本当に恐ろしいのは、人と人とのつながりを破壊していくところにあるのではないかと。

「やまぐち地域医療セミナー2020」も、地域医療も、新型コロナウイルス感染症に屈してしまうのか。

そんな思いが頭をよぎった。

ー原点と「つながる」昼下がり

しかし、そもそも地域医療は十分な設備がない中でも何とかやっていくものである。

「ない」ことを言い訳にはできない。

どんな状況でもあきらめない、一人でできなければみんなでやっていく、我々が今まで積み重ねてきた「やまぐち地域医療セミナー」は、そんな地域医療マインドを伝えていく場ではなかったか。そうであれば、中止ではなくやりたいこと、できることを考えるべきだろう。

地域医療を志す学生に伝えたいことは、コロナ禍において、へき地の住民が孤立していく状況と、そのような状況に対して我々に何ができるか、ということである。

そして、へき地の住民には学生たちの元気を届けたい。

へき地と学生をつなげる。

地域医療は、地域のつながりは、新型コロナウイルス感染症には屈しない。

では、どうやって。

やまぐち地域医療セミナーは高齢者の多い医療や介護の現場での実習を基本としており、比較的長時間の交流を行うことから、いわゆる三密は避けられない。

参加する学生や、感染が命の危険につながりかねない高齢者の感染リスクを考慮すると、万が一にも感染者を出すわけにはいかない。

やはり当初予定していた2泊3日の対面実習はできないだろう。

そんな時、下関市豊田町の地域包括ケア人材育成プロジェクトである「とよたび」に関わっている山口大学国際総合学部の学生から、オンラインでセミナーを行うというアイデアがあった。



「とよたび」とは、令和元年12月25日から27日に山口県立総合医療センターと下関市が主催して行った、医師、看護師、薬剤師、栄養管理士、社会福祉士を目指す学生や山口大学国際総合学部の学生による豊田町を舞台とした地域医療実習で、医療・介護施設での実習だけでなく、地域のコミュニティ行事やホームステイへの参加、豊田町観光協会による「ホテルが繋ぐ地域の絆」と題する講演、「まちづくり×地域包括ケア」のワークショップなど、多職種、異業種が共鳴する取組であった。

乱暴に言ってしまうと、「やまぐち地域医療セミナー」の精神が豊田町にまで広がったものであり、地域医療のネットワークが着々と築かれている証である。

その「とよたび」に参画した学生から、思わぬ妙案をもらったかたちだ。

思えば、我々は現場での実習にこだわるあまり、見えていなかったことがあるのではないかと。

確かに、実際に現場に出てみなければわからないことはある。

しかし、オンラインでもできること、オンラインだからこそできることもあるのではないかと。

よくよく考えてみれば、我々は普段からへき地でオンライン診療をやっているのではないかと。

オンライン診療はできてオンライン地域医療セミナーができない道理はない。

・・・やはり、学生の発想はいつだって面白い。

地域医療の担い手は、その人の病気を診るだけでなく、その人そのものを診る、そして地域を診る。少し大げさに言えば、地域医療とは、人の人生を支え、社会への処方箋を描く営みだ。

しかし、人の人生を支え、社会への処方箋を描くために人を診て、地域を診ていると、実は自分自身が人や地域に教えられ、支えられていることに気付く。

「やまぐち地域医療セミナー」を開催し、学生相手に地域医療マインドを伝えるつもりが、学生から気付かされたことは一度や二度ではない。

今回も、学生に気付かされたかたちだ。

地域医療の最大の強みは、最新の医療知識でも最先端の医療技術でもなく、ひょっとしたら、お互いがお互いを支え、支えられる地域そのものかもしれない。

これだから地域医療はやめられない。

我が意を得たり、思わずニヤリとしてしまうのを止めることはできなかった。

一夕焼けが照らす地域医療の挑戦

さあ、作戦会議を始めよう。

令和2年5月21日、「やまぐち地域医療セミナー2020 第2回実行委員会（臨時）」がウェブ会議で開催された。

学生が参加したくなるようなコンテンツを作ることが重要だ。

地域住民にインタビューはできないだろうか。

オンラインで健康教室を開けないだろうか。

オンライン診療の様子をぜひ見たい。

へき地の診療所や訪問看護師とつながる場があるとよいのではないかな。

オンラインでつなげば移動時間を考慮せずに別々の場所で研修ができるのは、オンラインの利点ではないか。

オンライン授業においても意外とできるということを感じており、工夫次第で学生の学びを深められる。

会議では、前向きな発言が次々に飛び出してきた。



今年度の地域医療セミナーはオンラインで行う。

この方針が、決定した。

「やまぐち地域医療セミナー2020」が、人と人とのつながりを志向する地域医療が、新型コロナウイルス感染症に対して挑戦状をたたきつけたのだ。

しかし、やる気があれば万事うまくいく、というほど世の中は甘くない。

実行委員会の面々は、今までIT、イット？とか、横文字の世界にはほとんど縁のない人間も少なくない。

ウェブ会議でも、マイクオフの状態でも延々としゃべり続けるというのも、よく見る「あるある」である。

それなのにオンラインでセミナーを行うといわれても、一体全体具体的に何をすればいいのか。とりあえず、どこかの市町で先行実施して、それを参考にして横展開を図るか・・・。

だが、そんな悠長な考えを敵は許してくれない。新型コロナウイルス感染症の影響で、大学も高校も相当の休校期間があり、授業もだいぶ遅れてしまった。遅れを取り戻すため、大学も高校も夏休みが短くなってしまった。

「やまぐち地域医療セミナー2020」は、まず学生が参加できなければ意味がない。

そうすると、自ずと開催の候補期間が限られてくる。

さらに言うと、大学生の夏休みと高校生の夏休みがずれてしまったため、当初予定していた高校生の同時参加は断念せざるを得なかった。

他にも、学生のニーズは、へき地の通信環境は大丈夫か、といった問題もある。

わからないことや問題は山積みだが、何とかやっけていくしかない。

どんな状況でもあきらめない、一人でできなければみんなで行っていき、今は我々が地域医療マインドを発揮していく時だ。

一七つ星が輝く夜

そうして、「やまぐち地域医療セミナー2020」は、地域医療セミナー本番までに5回の実行委員会を積み重ねてきた。

例年であれば、実行委員会はキックオフ、開催前、開催後の3回である。

会議と会議の間の期間は短くなっているが、決して協議事項が少なくなっているわけではない。

あれも検討しなくては、これも進めていかなくては・・・なんだかんだで時間に追われていたように思う。

そして、ついに、各市町で行う実習内容が決定した。

「やまぐち地域医療セミナー2020」がどういったものなのか、少しでもイメージできるように、スケジュールを抜粋してみた。

○周南市（8月17日、18日）

8月17日（月）

9:00～9:50 オリエンテーション
10:00～11:20 鹿野博愛病院
11:30～12:30 鹿野診療所
12:30～13:00 休憩（昼食）
13:00～13:50 オンライン診療について
14:00～15:50 やまなみ荘
（特別養護老人ホーム）
16:00～17:15 漢陽寺
17:30～18:00 1日の振り返り

8月18日（火）

9:15～9:30 オリエンテーション
9:30～10:50 明るく元気な鹿野をつくる会
11:00～12:00 保健師の活動について
12:00～13:00 休憩（昼食）
13:00～14:45 訪問看護師に同行
15:00～16:00 井戸端会議（ディスカッション）
16:00～17:30 井戸端会議（市長に語ろう）
19:30～21:00 井戸端会議
（オンライン意見交換会）

○萩市（8月19日、20日）

8月19日（水）

9:30～9:50 オリエンテーション、
萩市・むつみ地域の紹介、
むつみ診療所の施設案内
10:00～10:50 むつみ世代間交流施設
（地域サロン）の見学
利用者インタビュー
11:00～12:00 診療見学
12:00～13:30 昼休憩（オフライン）
13:30～14:20 訪問診療見学
14:30～15:20 模擬患者診察
15:30～16:00 ケア会議メンバーインタビュー
（ケアマネ、保健師、支援員）
16:00～17:00 スタッフインタビュー

8月20日(木)
 9:00 ~ 9:30 オリエンテーション、
 大島地区の紹介、
 大島診療所の施設案内
 9:30~10:30 診療見学、患者との対談
 10:45~12:00 みんなでディスカッション
 12:00~13:00 昼休憩(オフライン)
 13:00~14:30 訪問診療見学
 14:40~16:30 地域ケア会議
 16:30~18:00 休憩(オフライン)
 18:00~
 意見交換会
 (医師、保健師、看護師参加)

○岩国市(8月20日、21日)

8月20日(木)
 9:00 ~ 9:45 オリエンテーション
 10:30~12:00 美和病院 外来診察・訪問看護
 13:00~14:30 本郷診療所 看護師が患者宅
 に伺うオンライン診療
 15:00~16:20 錦中央病院 外来ケア会議
 16:30~17:20 ドコモ
 5Gを使った遠隔医療
 17:30~19:00 Meet The Expert
 旭酒造桜井会長
 19:00~20:00 オンライン懇親会

8月21日(金)
 9:00 ~ 9:45 へき地の医師と保健師による
 地域を元気にするための取り組み
 10:00~11:30 柱島診療所 離島診療
 13:00~14:30 岩国市医療センター
 医師会病院
 療育センター・リハビリ紹介
 15:00~16:30 岩国医療センター
 急性期医療の現状、退院調整
 16:30~17:00 振り返り

○下関市/とよたび(8月20日、21日)

8月20日(木)
 9:00~10:30 オリエンテーション
 (開会挨拶、講演、自己紹介)
 10:30~11:20 ライフレビュー事前準備
 11:20~14:30 ライフレビューヒアリング
 14:30~15:00 ライフレビューまとめ
 15:30~17:00 訪問診療(ライブ中継)
 17:15~17:30 1日目のまとめ

8月21日(金)

9:00~12:00 とよたツアー
 豊田ホテルの里ミュージアム
 地域おこし協力隊
 豊田町観光協会
 12:00~13:00 休憩
 13:00~15:00 多職種模擬カンファレンス
 15:30~17:00 座談会「ウィズ・コロナ、ポス
 ト・コロナの時代の豊田地域
 包括ケアそしてまちづくり」
 17:30~18:30 オンライン懇親会

○周防大島町(8月27日、28日)

8月27日(木)
 9:00~ 9:30 オリエンテーション
 9:30~12:00 在宅訪問
 暮らし支援サービス netto
 末弘隆太氏インタビュー
 12:00~13:00 ランチョンセミナー
 集落支援 榮大吾氏VTR
 13:00~14:00 榮大吾氏インタビュー及び
 ディスカッション
 14:00~14:40 病院事業局石原管理者
 セミナー導入講義
 14:40~17:00 訪問診療
 非同居家族による看護
 病状確認及びリハビリ等
 17:00~ チームディスカッション

8月28日(金)

- 10:00~12:00 ケアマネ・民生委員情報交換会
- 12:00~13:00 ランチョンセミナー
しまかぜ在宅診療所
離島診療VTR
- 13:00~15:00 しまかぜ在宅診療所
診療所紹介、在宅診療
- 15:00~16:00 大島病院インタビュー
コロナ禍の地域医療について
- 16:00~ チームディスカッション

○長門市(9月2日、3日)

9月2日(水)

- 9:30~10:00 オリエンテーション
長門市応急診療所の紹介
- 10:30~12:00 うさぎカフェ
主催者、参加者インタビュー
- 12:00~13:30 休憩(昼食)
- 13:30~15:00 長門市の魅力発見
観光のまちづくりについて
- 15:10~17:15 地域医療関係者の活動紹介
- 18:00~20:00 オンライン交流会

9月3日(木)

- 9:00 ~ 9:15 オリエンテーション
- 9:15~10:00 地域と保健所の関わり
- 10:00~12:00 中山地区百歳体操
- 12:00~13:30 休憩(昼食)
- 13:30~15:30 長門総合病院 コロナ禍の
医療の現状について
- 15:40~17:00 振り返り、総括

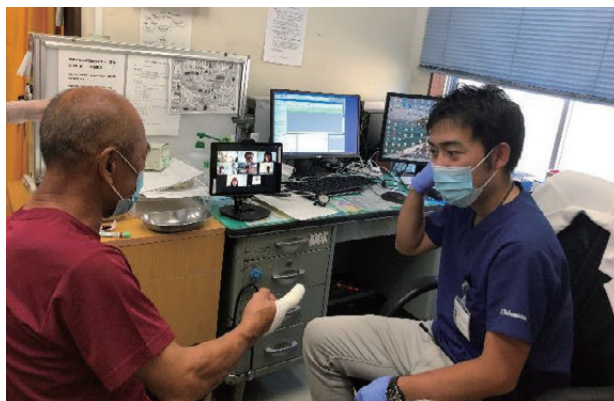
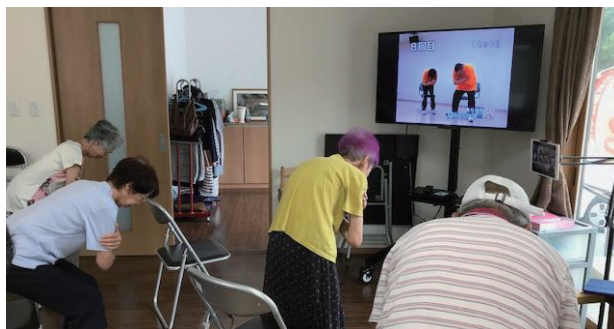
○美祢市(9月8日、9日)

9月8日(火)

- 8:45 ~ 9:40 オリエンテーション
- 10:00~12:00 総合診療見学
- 13:30~16:00 オンライン地域診断
介護予防体操

9月9日(水)

- 9:00~12:00 訪問看護同行
- 13:00~14:00 薬剤科見学
- 15:00~16:00 介護老人保健施設グリーンヒル美祢 通所者インタビュー
- 18:00~19:00 オンライン懇親会



どうだろうか。

各市町、いずれも工夫を凝らした内容となっている。

周南市の「漢陽寺」ってお寺？地域医療セミナーでなぜお寺？座禅とかするの？？

萩市は中山間地域と離島でしっかりへき地医療を体感できる内容となっている。

岩国市の「5Gを使った遠隔医療」は現役の医師でも聞いてみたい内容ではないだろうか。

下関市は「とよたび」とのコラボで、ルームを分けての少人数ごとのグループワークを多く採り入れていた。

周防大島町は、まずランチョンセミナーでVTRを見て、その後にご本人登場の流れか。

長門市でも「うさぎカフェ」や「百歳体操」など気になるワードが出てきた。

美祢市は下川先生の総合診療の様子を見学するのか・・・えっ、「オンライン地域診断」？

「下川先生が地域を斬る！」みたいな？？などなど。

紙面では、内容の魅力を十分に伝えきれていないことはご容赦いただきたい。

ただ、「やまぐち地域医療セミナー2020」が、単なる病院見学に終わらないことは伝わったのではないだろうか。

惜しむらくは、これらが実際に現地でできなかったことだ。

ただ、9月のはじめに台風様がいらっしゃったが、オンラインなので、参加学生に危険が及ぶことはなかったことは利点として挙げられる。

一つ、裏話をすると、これだけ盛沢山の内容をオンラインで行う場合、大体4,5台の端末が同時に必要となる。

もちろん、セミナーのオンライン開催に合わせて18台のiPadを用意していたが、(うれしい誤算であるが)これでは全然足りない。

かといって、各市町5台ずつ用意するのは予算の無駄遣いになりかねない。

そこで、例えば、周南市のセミナーが終了したら、iPadを岩国市に引き継ぐ、といったやりくりをしていた。

日程が重なっている場合があるので、やりくりにも一工夫がいる。

今年の「やまぐち地域医療セミナー2020」は県内7市町のリレー方式によるオンライン開催であったが、まさにiPadと地域医療マインドをバトンにしたリレーであった。

ー全体オリエンテーションと全体報告会

「やまぐち地域医療セミナー2020」は、県内7市町のリレー方式によるオンライン開催のほかに、開催に先立って全体オリエンテーションを、まとめとして全体報告会を行った。

全体オリエンテーションは、セミナーの概要や注意事項を説明した動画を作成し、YouTubeに期間限定公開を行った。参加前に閲覧してもらう仕組みだ。

全体報告会は、それぞれの地域で学んできた学生が一堂に会し、それぞれが学んできたことをみんなでも共有するものである。

9月26日(土)に開催され、「離れていても繋がれる今、地域医療のためにできること」をテーマに、山口県の地域医療を守るためにどうすればよいか、自分たちは何ができるか、現代だからこそできる支援、などについて、企画、事業、アイデアを考えた。



前に述べたように、当初は、「やまぐち地域医療セミナー2020」は高校生も参加し、参加学生との交流がなされることを目指していたが、高校生と大学生の夏休み日程が合わなかったため、断念せざるを得なかった。

だが、「やまぐち地域医療セミナー2020」を何とかやり遂げた経験を活かし、「やまぐち地域医療セミナー2020 高校生セミナー」を別途開催することとした。

参考までに、開催日程を以下に示す。

○周南市、へき地医療支援部実施（第1回）

11月15日（日）

13:00～13:10 自己紹介、オリエンテーション

13:20～14:30 診察動画閲覧、
ディスカッション

14:45～16:00 地域住民活動の紹介、
ディスカッション

16:15～17:00 医学生等との交流

17:10～17:30 セミナー全体の振り返り

○岩国市、へき地医療支援部実施（第2回）

12月12日（土）

14:00～14:10 自己紹介、オリエンテーション

14:15～15:10 診察動画閲覧、
ディスカッション

15:20～16:20 医師から見た地域住民活動、
ディスカッション

16:30～17:10 医学生、若手医師との交流

17:10～17:30 セミナー全体の振り返り

○山口大学医学部実施（第3回）

12月22日（火）

17:10～17:25 オリエンテーション

17:30～19:00 若手医師による医学生の進路
の決め方に関する講演（※）

19:00～19:30 医学生との交流

※は「やまコミ」（山口県医師修学資金貸与者に

よる勉強会）とのコラボで、山大医学生も参加。



「やまぐち地域医療セミナー2020 高校生セミナー」の開催を決定したのは、9月18日に開催された「やまぐち地域医療セミナー2020 第6回実行委員会」においてであるが、実は、その時はまだ実施主体すら明確に決まっていなかった。

だが、新型コロナウイルス感染症の影響で、病院見学すらまともにできない現状で、高校生が医療の実際に触れる機会にはほぼないのではないかと。

開催は、決して無意味ではない。

とりあえずやってみる、詳細は走りながら考える。関係者には諸々ご迷惑をおかけしたが、参加した高校生には地域医療の魅力を伝えることができたのではないだろうか。

今回の経験を活かし、来年度も「やまぐち地域医療セミナー」、高校生向けセミナー、ともに開催するつもりである。

新型コロナウイルス感染症を取り巻く状況が見えない中、対面実習で行うのか、オンラインで行うのか、学生と高校生の合同で行うのか、別々に行うのか、現時点ではわからない。

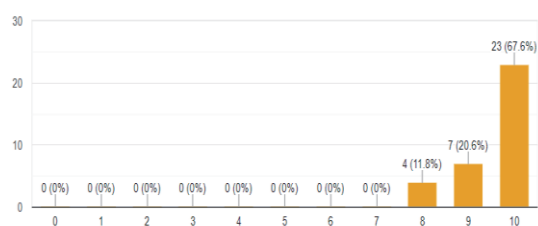
だが、よりリファインして、よりパワーアップして戻ってくるつもりだ。

興味のある方は、ぜひご参加いただきたい。

ー未来の地域医療の担い手からのメッセージ

「やまぐち地域医療セミナー2020」に参加した学生にアンケートを実施して、セミナーの満足度を回答してもらい、学んだこと、感想を記入してもらった。

やまぐち地域医療セミナー全体について
34件の回答



回答者は34人。アンケート対象の参加者は「とよたび」からの参加者を除いて38人。

満足度は、10段階評価で、

「8」が4人（全体の11.8%）

「9」が7人（全体の20.6%）

「10」が23人（全体の67.6%）

となっており、セミナーと名がつくものの中でも満足度が高いものではないだろうか。

最後は、学生の学んだこと、感想の中から一部抜粋することでエンドロールとしたい。

- ・住民同士の関わりやサロンなどのその地域で行われていることを知ることができた。また、医師や看護師などは住民の性格や家族との様子を知った上で住民と関わっているということを学んだ。

- ・今までイメージでしか理解していなかった地域包括ケアやチーム医療の実態を、実際に見たり話を聞いたりして、深く理解することができました。

- ・学校では学べないような、現地の方の生の声やドクターの声が聞けた事、またこれからの超高齢化社会問題とどう向き合っていくかなど、自分の中の課題が見つかった気がします。

- ・地域医療を支える様々な職種の方のお話やインタビュー、職場の見学により、今まで知らなかった役割と工夫を知ることができました。地域を深掘りすることの楽しさもわかりました。今回のセミナーはこれからの学生生活の意欲にもつながると思います。

- ・患者さんや利用者さんに提供されている医療の先に、1人1人の生活があることが分かった。学校で学んでいる看護技術が地域の中で活用されている様子を見ることが出来、今後の大学での学びのモチベーションやさらなる興味に繋がった。

- ・他の学校の医学生、看護学生の意見を聞くことで違った視点で医療について考えることができた。地域医療の役割や魅力を自分の中で理解することができた。へき地医療の実状を知ることができた。

- ・地域医療は医療従事者だけでなく地域の人たちの協力もあって成り立っている。

- へき地医療のやりがいや魅力 へき地の現場で働いてみたい気持ちが強まった。
 - オンラインであっても、地域医療をなんとか維持しようとしている方々がいらっしゃることを知りました。これから、その一助を担うことができるよう、勉強がんばります。
 - オンラインであっても多くの地域の良さに触れることができたことと、他学部の学生さんや専門職の方々から学校では学ぶことのできない学びや視点を学ぶことができた。
 - 町の魅力や地域医療について実際に行われていることや大切になっていることを学ぶことが出来た。また、意見交換などで発言しながら傾聴することの大切さを感じた。
 - へき地での医療を維持していく重要性や課題について知り、自分なりに考えることができました。この問題はいずれ日本の多くの地域で直面することだと思うので、この機会に早い段階で危機意識を持てたことは良かったと思います。私1人が知ったからといって状況は変わりませんが、皆がこうして危機意識を持てば少しはいい方向に進んでいくのではないかと思います。
 - 地域医療の実際を学ぶこととそこに携わる方々の情熱が新たに地域を支える医療人を生み出すのだなと感じました。自分自身もそこに続けよう医療人として貢献できるようになりたいです。
 - 今回のセミナーでは、休憩時間や終了後にはすぐに休むことができるので、反省する時間が多く取れました。その中で、前回のセッションではあの時こう言えば良かった、もっとこれは詳しく聞くべきだった、など自分の足りない部分にしっかりフォーカスすることができました。
- 来年のセミナーではまた一回り成長して臨みたいと強く感じました。
- 地域医療は、患者さんやその家族の生活に深く関わるので、背景や気持ちを尊重しなければならないこと。
 - この度、自分の住む周防大島町のセミナーに参加して、自分の知らないことが多くて驚きました。今まで医療福祉について学ぶ機会はありませんでしたが、nettoのように制度に捉われず、医療、福祉と連携し、なんでもやさんとして地域の方を支えている、素晴らしいサービスがあることも知れましたし、こうやって地域の住民を支えるために、自分から考え動き出している人がいることに、とても感動しましたし、偉大だなと思いました。また、高齢化率が高いということは、ピンチではなくチャンスという言葉がとても印象的で、これから大島で働こうとしている私にとって、すごくありがたい言葉でした。だからこそ、現状老老介護で支える人の力が不足している大島で、若い世代として、自分に何が出来るのかを考えて、私がこれから先歳を重ねて、おばあちゃんになって、その時自分の暮らす地域がどのような形だったら幸せか想像して、今自分にできることを小さなことでもいいから、動き出せたらいいなと思いました。また、なによりも大島町は本当に人と人との温かいつながりがあって、本当にいいところだなあと改めて感じることができ、前より大島のことが好きになれたことがうれしかったです。
 - 実際に多職種カンファレンスをやってみて、それぞれの視点や情報が統合されていくことでその人の幸せの手助けができるのだということ学びました。また、訪問診療を実際に見せていただいて患者さんや家族との訪問時の関わり方や視点を学ぶことができました。

- 今回の企画に多大な時間をかけていただいた事に感謝します。この経験をもっといろんな人と共有したいので、ぜひまた企画をお願いします、楽しみにしています。2日間、本当にありがとうございました。
 - 来年も参加したい。次は、自分より高学年の意見も伺ってみたいと感じた。感染予防のため致し方ないが、現地で学んでみたいと思った。
 - 2日間とても内容の濃いセミナーを受けることができました。医療の視点から地域を見ることで今までとは異なった形で地域の課題、強みを考えることができました。この経験を今後の学習に生かしていきたいです。ありがとうございました。
 - オンラインも非常に有意義なものであったが、やはり、実際に現地に赴いて自分の目や耳を通じて学びたいと感じた。
 - 2日間ありがとうございました。皆様のおかげで予想よりも大変充実したセミナーでした。来年は地域に行つての実習になればと思いますが、もし難しかったとしても、今回のようにオンラインでもできると思うので、果てしませんがどんな年でも途切れなく開催していただければと思います。今回も学生が地域医療を学べる場として有意義だったなと思いました。
 - セミナー2日間、お世話になりました。大変な社会情勢のなかでもこのような形で開催していただいたことに、とても感謝しております。本当にありがとうございました。オンライン開催という特殊な状況下にも柔軟に対応し、開催していただき、感謝の気持ちでいっぱいです。
 - セミナーに参加したことで、参加前に抱いていた地域医療のイメージが変化し、また、多職種それぞれの考え方や実践についても学ぶことができ、とても良い経験になりました。ありがとうございました。
 - ヘき地はもちろんこれから10年、20年後には同じような課題を抱える地域は多いと思うので、是非学びの共有が出来れば良いなと思います。
 - 今年度もコロナ禍ということもあり、オンラインでの開催となりましたが、大変有意義な実習をすることができました。私達学生のために様々な工夫や準備をしてくださった医療スタッフの皆様感謝申し上げます。ありがとうございました。
 - オンラインでの開催決定ありがとうございます。とても良い経験になりました。来年もぜひ参加させていただきたいです。
 - 今回の実習で経験できたことで、地域の人に貢献できるような看護職者になりたいと強く思いました。また、地域医療についてより深く学んでみたいと思いました。これからの大学生活で学んだことを生かしてより成長していきたいと思います。貴重な経験をさせていただいてありがとうございました。
- 現在と、未来の地域医療の担い手たちの挑戦に、乾杯！
- コロナ禍で挑戦する地域医療 —つづく—

トピックス 山口県医師修学資金貸与者を村岡知事が激励しました！

令和2年9月11日、県の医師修学資金の「緊急医師確保対策枠」及び「地域医療再生枠」の貸与を受けている山口大学医学部医学科1年生15人が、県庁を訪問しました。

医学生を代表し、周南市出身の水津凜太郎さんと下関市出身の西田裕香さんが、村岡知事に決意表明をしました。2人からは、新型コロナウイルス感染症という未曾有の事態の中、医療従事者の方々や県民の皆様のご尽力への感謝が述べられ、今度は私たちが医師として貢献したいとの決意が示されました。また、私たちに貸与される資金は県民の皆様のご厚意により支えられており、県民の皆様のご期待に応えられるよう、今日ここにいる15人で協力し、成長していきたい旨述べました。



村岡知事は「山口県の医療をこれから支える決意を聞いて大変心強い。山口大学と連携し、さまざまな面で支援したいと思います。これからの活躍を期待しています。」と医学生たちを激励しました。その後の歓談で、村岡知事は、医学生1人ひとりに理想の医師像や目標、学生生活などについても時間をかけて聞かれ、それに対して医学生たちが、自分たちの目標や自分たちが力を入れて取り組んでいることなどを熱心に語っていました。医学生にとっては、県民からの期待を実感し、自らの使命を再確認する貴重な機会となったのではないのでしょうか。



◆ 医師確保総合情報サイト「やまぐちドクターネット」

県のインターネットサイト『やまぐちドクターネット』では、県の医師確保対策をはじめ、地域医療に関するトピックスや県内医療機関の情報を掲載しています。

このサイト上で会員登録をいただいた方には、現場で活躍する女性医師や研修医の方々のエッセイ等を紹介するメールマガジン「やまぐちドクターネット通信」を隔月配信しています。

本誌のバックナンバーも掲載していますので、ぜひ一度ご覧ください。

⇒ <http://www.y-doctor.med.yamaguchi-u.ac.jp/>



◆ 地域医療に従事する医師を志す方への支援制度を設けています！

山口県では、地域医療を担う医師の育成のため、自治医科大学の運営費負担と医師修学資金の貸付けを行っています。各制度の詳細や応募方法については、山口県医療政策課へお尋ねください。

自治医科大学について

自治医科大学は、へき地等の医療の確保と向上を図るため、昭和47年に全国の都道府県が共同して設立した、地域医療を支える医師を養成する医科大学です。

山口県からは、毎年2～3人が入学し、現在、山口県出身の卒業医師は86人にのぼっており、へき地医療のほか、病院や大学、行政など、様々な分野の第一線で活躍しています。

<修学資金貸与と返還免除>

- 修学資金貸与
入学金・授業料・実験実習費・施設設備費の全額と入学時学業準備費40万円が入学者全員に修学資金として貸与されます。
- 返還免除
卒業後、山口県知事指定のへき地診療所等に医師として勤務した期間が、修学資金の貸与を受けた期間の1.5倍相当期間に達した場合は、修学資金全額（利息含む）の返還が免除されます。

<入試情報>

<p>第1次試験（学力試験・面接試験）</p> <p>期日：例年1月下旬（学力試験の翌日に面接試験）</p> <p>場所：山口県庁</p> <p>学力試験の科目：数学・理科・外国語</p>	<p>第2次試験（記述式学力試験・面接試験）</p> <p>期日：例年2月上旬</p> <p>場所：自治医科大学（栃木県下野市）</p>
--	--

山口県医師修学資金貸付制度について

《入学予定者・在学生対象の募集》 ★募集期間：令和3年3月下旬～5月下旬

区 分	特定診療科枠・外科枠（地域枠入学者分）	特定診療科枠・外科枠（その他分）
募集人数	8人程度	2人程度
貸付額	月額15万円	月額15万円
対象者 ア～ウを 全て 満たす者	ア 山口大学医学部医学科推薦入試「地域枠」で入学した者のうち山口県医師修学資金の貸し付けを希望する者	（次のいずれかに該当） ①山口県内の高校を卒業し、医学部に在籍する学生 ③山口県外の高校を卒業し、山口県内に3年以上継続して在住する保護者を有し、医学部に在籍する学生
	イ	1年生～6年生
	ウ	大学卒業後、山口県内の公的医療機関等において、 <u>小児科、産婦人科、麻酔科、救急科、放射線治療科、病理診断科、呼吸器内科、外科</u> の医師として勤務しようとする学生
貸付けの条件	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大学を卒業した日から2年以内に医師免許を取得し、その後、直ちに臨床研修を開始しなければなりません。 ○ 臨床研修修了後、貸付期間の2倍に相当する期間に達するまでの間に、貸付期間の1.5倍に相当する期間、知事が指定する県内公的医療機関等において医師として（特定診療科枠・外科枠においては、当該診療科の医師として）業務に従事しなければなりません。 （県内の基幹型臨床研修病院が管理を行う臨床研修プログラムで実施された臨床研修期間については、貸付期間が5年以上の場合は2年、3年以上5年未満の場合は1年が業務に従事した期間として算入されます。） 	
返還免除要件	上記の「貸付けの条件」を全て満たした場合に、貸付金の全額（利息含む）の返還が免除されます。	

《大学入試枠との連動》 ★募集期間については山口大学の募集要項をご参照ください

区 分	地域医療再生枠	緊急医師確保対策枠
募集人数	10人	5人
貸付額	月額15万円	月額20万円
対象者	山口大学医学部医学科推薦入試「地域医療再生枠」に合格した者全員	山口大学医学部医学科推薦入試「緊急医師確保対策枠」に合格した者全員
貸付けの条件	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大学を卒業した日から2年以内に医師免許を取得し、その後、直ちに臨床研修を開始しなければなりません。 ○ 臨床研修修了後、12年に達するまでの間に9年（緊急医師確保対策枠の場合、9年のうち4年は過疎地域の病院において）、知事が指定する県内公的医療機関等において医師として業務に従事しなければなりません。 （県内の基幹型臨床研修病院が管理を行う臨床研修プログラムで実施された臨床研修期間については、2年が業務に従事した期間として算入されます。） 	
返還免除要件	上記の「貸付けの条件」を全て満たした場合に、貸付金の全額（利息含む）の返還が免除されます。	

※令和2年度の募集内容であり、今後見直される可能性があります。

◆ 「地域医療の風だより」 発送の御案内

お送りいただいた情報は本誌の送付に関する用途以外には使用しません。

ファックスでのお申込み

申込書に御記入の上、ファックス番号 083-933-2829 にお送りください。

◆ 発送申込書

氏 名	(歳)
送付先住所	(〒 -)

Eメールでのお申込み

件名を「地域医療の風だより発送希望（医師確保対策班）」とし、申込者の氏名・送付先住所・郵便番号を記入して、メールアドレス a11700@pref.yamaguchi.lg.jp にお送りください。



山口県健康福祉部医療政策課医師確保対策班

山口県へき地医療支援機構

〒753-8501 山口県山口市滝町1番1号

電 話 083-933-2937

Eメール a11700@pref.yamaguchi.lg.jp

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a11700/index/>